

平成 23 年 11 月 16 日発行号

※本紙は、毎月 1 回発行しています。なお、本紙の英語版・中国語版・韓国語版・ポルトガル語版・タガログ語版・フランス語は、当協会HPからダウンロードできます。
【(財)自治体国際化協会助成事業】

東日本大震災から 8 か月が経ち、福島県は、着実に復興復旧に向けて動いております。今の福島の暮らしをご覧ください。



福島の風物



鶴ヶ城をバックに記念写真を撮る観光客
(会津若松市 2011.10.29 撮影)

会津若松市は全国各地から年間 300～350 万人の観光客が訪れる観光地です。原発から約 100km 離れていますが、震災後その数は激減しました。しかし、秋の行楽シーズンの中、地元懸命な努力で徐々に観光客数が戻りつつあります。



市民で賑わう『ごちそうふくしま満喫フェア 2011』
(福島市 2011.11.5 撮影)

浪江焼きそば、会津ソースカツ丼、喜多方ラーメンなどのご当地グルメや特産品、お土産など福島県内各地の 132 店舗が勢ぞろいした食の祭典が、福島市で開催されました。ステージではお笑いや音楽のライブがあり大いに盛り上がりました。



店頭に並ぶ福島産新米
(伊達市 2011.11.16 撮影)

コメの放射性物質調査を進めていた福島県は 10 月 12 日、今年の県産米について調査対象すべてで放射性セシウムが国の基準値 (500 ベクレル/kg) を下回ったと正式に発表しました。これを受けて店頭では新米の販売が始まりました。



福島からの声

伏見裕方 (ふしみ やすまさ) さん (南相馬市 男性)

震災当時、私は妻と仙台市にいました。やっとの思いで自宅に着いたのは夜中の 12 時。その晩は何も知らず自宅で寝ましたが、朝起きて家の前を見たら、なんと津波で流された多くのがれきが山積しており、言葉もない状況でした。原発から 30 km 圏以内だったので一次的に県外に避難しましたが、7 月に戻りました。田んぼはがれきや塩害で使い物になりません。でもいつかはという気持ちで草刈りをしてその時に備えています。子どもたちも半分くらい戻ってきたかな。今のこの一番悪い状況から、なんとか世界中の人が一番集まる場所にしたい。これが俺の夢だね。

中田ひろみさん (会津若松市 女性)

震災から 8 か月、早いですね。震災当時は断水、ガソリンがない、店に物がないうろいろいろありましたが、今は普段と変わらない生活をしています。でも気持ちは確実に去年とは違います。それは何かと言うと、ずっと強迫観念に捉われているというか、朝、娘を学校に送り出した後、もしかしてこのまま会えないかも、単身赴任の夫ともこのまま会えないかもという感覚です。一方、先日県外の友人に会津の柿と新米を贈りました。毎年贈っているのですが今年は放射線のことがあるので、事前に贈っていいか聞きましたが、みんな「贈って」と言ってくれてうれしかったです。とにかく穏やかに暮らしたいです。

チンタカ クマーラさん (郡山市 スリランカ出身男性)

今回の震災で、家族がバラバラになってしまいました。中学校 3 年の息子と妻はすぐに名古屋の友人宅に身を寄せ、そのままスリランカに戻りました。その後息子はアメリカの高校に留学しています。日本は高い技術力を持っています。是非専門家の頭脳を集結して、放射線除去の技術を一日も早く開発してほしいです。特に将来を担う子どもたちが心配です。早くしないと大きな問題になると思います。私は日本大学工学部に留学して以来ずっと福島にお世話になっています。本当に福島は「福の島」です。住むところは福島しかないと思っています。頑張っていくしかないですね。

朱雲飛さん (福島市 中国出身男性)

震災後は、すぐに 5 歳の息子と妻の 3 人で中国に一時帰国しましたが、息子は、まだ中国の両親に預けています。生活は元に戻りましたが、仕事内容は変わりました。アジアからの留学生受け入れに関わる業務をしていますが、この原発事故の影響で従来の方法では留学生が見込めないため、さまざまな特典を盛り込むこととなりました。今、一番気になっていることは放射線の子どもの影響です。多くの専門家が様々なことを言っています。いつになったら中国に避難させている子どもと一緒に暮らせるのか、将来の生活設計が立たないというのが実情です。



福島の復興



計画的避難区域となっている飯舘村
(2011.10.27 撮影)

4月22日に計画的避難区域となった飯舘村。6月22日には、役場機能も、隣町の福島市飯野町に移しました。現在は、耕作されていない農地、カーテンが閉まったままの家や店舗があり、人影もなくひっそりとした風景となっています。



活気を取り戻した南相馬市商店街
(2011.10.27 撮影)

福島第一原発から30km圏内に位置する南相馬市。原発事故後は屋内退避区域、そして緊急時避難準備区域へ、そしてそれも9月30日には解除となりました。10月17日には原町区の公立学校においても、自分の学校での授業が再開し、街にも活気が戻ってきました。



漁船が戻りだした松川浦漁港
(2011.10.27 撮影)

震災当時大津波が何度も押し寄せ、多くの人命が失われ、そして多くの漁船や家屋が流された松川浦漁港。しかし地元の人たちをはじめ全国からの支援のもと懸命な復旧作業が行われ、漁港にも漁船が戻ってきました。



福島県内各地の環境放射能測定値(暫定値)の推移(福島県のホームページから抜粋)

福島県HP(福島県国際交流協会HPへリンク)では、「環境放射能測定結果(暫定値)」や「飲料水(水道水)環境放射能測定結果(暫定値)」、「農産物被害等関連情報」など様々な被害状況即報を日本語、英語、中国語で、県国際交流協会HPでは、それらに加え、タガログ語、韓国語、ポルトガル語で随時更新しています。<http://www.worldvillage.org/>

単位: マイクロシーベルト/時間

測定地点 ※1	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約63km	西 約58km	西南西 約81km	西 約98km	西南西 約115km	北 約24km	南南西 約43km
平常値 ※2	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
測定日時 2011.11.15 11:00	0.96	0.79	0.41	0.13	0.07	0.41	0.16

※1 測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所駐車場、郡山市は県合同庁舎東側入口付近、その他の市町は県合同庁舎駐車場。

※2 平常値は、平成21年度放射線レベル調査結果

※測定装置は、南相馬市は可搬型MP、その他の市町はすべてサーベイメータ



お知らせ

『放射線と私たちの健康セミナー(英語または中国語の通訳付)』参加者募集

当協会では、福島県放射線健康リスク管理アドバイザーである長崎大学教授高村昇さんを迎え県内4会場でセミナーを開催します。入場無料ですが事前予約が必要です。参加申し込みは当協会まで。

日 時	会場名	通訳言語
12月3日(土) 13:00~15:30	郡山市総合福祉センター	中国語
12月4日(日) 13:00~15:30	会津若松市生涯学習総合センター『會津稽古堂』	中国語
12月17日(土) 13:00~15:30	いわき市社会福祉センター	英語
12月18日(日) 13:00~15:30	福島テルサ	英語

外国語による県民健康管理調査問診票

福島県では、放射線の影響と県民の健康管理を目的とした「県民健康管理調査」を実施しています。英語、中国語、韓国語、タガログ語、やさしい日本語に翻訳した問診票が当協会HPからダウンロードできます。

<http://www.worldvillage.org/fia/fhms.php>

詳しくは福島県立医科大学 県民健康管理調査事務局まで。 TEL 024-549-5130 (毎日9:00~17:00)